

森林やまがた

No.221

2026.1



フォレスト
サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

新年のご挨拶	2
令和7年度川村造林記念山形県林業賞	3
県農林水産部長への要望活動	3
第39回山形県きのこ品評会開催	4
『全国林材業労働災害防止大会』開催	5
山形県民の宝である「樹氷」の復活に向け ～樹氷復活県民会議による オオシラビソ林の再生～	6
国有林から 「超緩効性肥料」を用いた特定苗木の 低コスト化の可能性(検証)	7
みどりのページ 「森の教室どんぐりくんと森の仲間たち」	8
緑の少年団出前教室の開催	9
東北・北海道地区の緑化功労者表彰 荒倉散策道愛護会	9
「やまがた絆の森」契約更新企業(費用負担型)へ 感謝状贈呈	10

普及情報

森林技術者のICT技術の向上を図る スマート林業研修を始動	11
フォレスト通信 農林大学校・専門職大学 から 未来のフォレスターたち	12
森の人紹介 平田充廣さん・熊谷耐志さん	13
原木なめこ栽培技術研修会を開催しました	14
おきたま林業株式会社の森林認証取得と 持続的森林経営の取り組み	15
林業ICT研修会の開催	15
「庄内森とみどりのフェスティバル2025」開催	16
高性能林業機械メンテナンス研修会・ 高性能林業新機械導入研修会を開催	17
山形県森林協会 今井 敏 会長 令和7年度秋叙勲で瑞宝重光章を受章	18
大日本山林会全国林業経営推奨行事 清野忠市氏林野庁長官賞受賞	18

(表紙写真：瑞宝山本山慈恩寺(寒河江市)の三重塔
(県指定有形文化財))



新年のご挨拶

農林水産部森林ノミクス推進課長

笠井俊哉

令和8年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。皆様には、日頃から本県の森林・林業・木材産業の振興に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、県森林研究研修センターで長年にわたり開発に取り組んでいた優良スギ苗木の流通が開始され、再造林の推進体制がさらに強化された一方、庄内海岸林では夏の高温少雨の影響等によりクロマツの松くい虫被害が急速に拡大し、被害量が過去最大を更新する見込みとなりました。

庄内海岸林については、道路や耕作地への二次被害対策として危険な被害木の伐採に最優先で取り組んでまいります。また、被害の状況に応じた新たなゾーニングを行い、「被害が少ない区域」は防除を継続し、「被害が多く防除効果が期待できない区域」は、抵抗性クロマツの植栽や広葉樹への樹種転換により防風林としての機能を維持してまいります。

◆やまがた森林ノミクスの推進

県では、県土の7割を占める緑豊かな森林資源を「森のエネルギー、森の恵み」として県民総参加で活用し、雇用の創出や地域活性化につなげる「やまがた森林ノミクス」を推進しております。

これまでの成果として、県産木材生産量は平成28年の43万m³から令和6年は55万m³、再造林面積は32haから153haとなりました。また、林業労働生産性においても5.5m³/人から7.2m³/人に大幅に向上しております。さらに、人材育成の面では、令和6年4月に東北初の公立の農林業系専門職大学である「東北農林専門職大学」が新庄市に開学し、現在、森林業経営学科で第一期生と第二期生を合わせて17名が意欲的に学ぶなど、着実に取り組みの成果が現れてきているところでです。

このような中、県では、令和7年3月に直近4年間で取り組む具体的な実

行計画として、「第5次農林水産業元気創造戦略」を策定いたしました。森林・林業・木材産業の分野としては、引き続き基本戦略に「やまがた森林ノミクス」の加速化を掲げ、令和10年度の目標値として木材生産量70万m³、再造林率100%を設定し、森林資源の循環利用の拡大に向けて、人材の育成や県産木材の需要創出などに取り組んでいるところでです。

特に持続可能な森林経営の推進については、本県の林業を担う人材の育成として、「東北農林専門職大学」や「緑の雇用」事業により、新規林業就業者の確保と定着に努めるほか、雇用環境の改善や事業の合理化に取り組む林業事業者への支援に取り組んでまいります。加えて、林業現場においては、森林境界の明確化や森林経営計画制度及び森林経営管理制度等を活用した森林施業の集約化を推進し、路網整備と高性能林業機械の活用による計画的・効率的な木材生産とその後の再造林を推進し、持続可能な林業経営の確立に取り組んでまいります。

また、県産木材の供給体制の強化と利活用の促進については、民間施設や中大規模の木造建築物を設計できる技術者である「やまがた木造設計マイスター」の設計機会の創出や県産製材品の生産体制を強化するため、県産木材サプライチェーン構築の支援などを実施してまいります。

さらに、頻発・激甚化する自然災害への備えとして、森林整備や治山施設整備を一体的に実施し保安林の機能強化に努めるとともに、政府のインフラ長寿命化基本計画に基づき、治山施設の計画的な点検・診断、補修等による長寿命化対策に取り組んでまいります。

その他、これら施策の実現に向けて、施策提案ソフトなどICT活用ソフトの導入や森林境界明確化及び山地災害調査におけるドローンの活用などスマート林業の推進にも積極的に取り組んでまいります。

今後も、政府の方針や社会情勢を見極めながら林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化に向け、川上から川下までの総合的な施策を積極的に進めてまいりますので、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和7年度川村造林記念山形県林業賞

深田周一氏(鮭川村)が受賞されました

◆はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年11月18日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、吉村知事から表彰状と記念の盾が受賞者に授与されました。

◆川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、第23代知事として在任した川村貞四郎氏から寄贈された山林を基金として、本県の民有林業の振興・発展に顕著な功績のあった個人、団体を表彰するため、昭和39年に創設されました。本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和40年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方は、個人68名、49団体、合わせて117者となっています。

◆深田周一氏(鮭川村)

昭和42年に農閑期の農業所得確保策として県内でいち早くエノキタケ栽培を開始。昭和47年からは、温湿度を制御できる空調整備を導入し、通年での施設栽培技術を確立されました。また、鮭川村内の菌茸生産者

で組織する「鮭川村菌茸生産組合連絡協議会」の会長として、他の菌茸生産者に技術指導を行うなど、長年にわたり本県の菌茸生産の振興と発展に貢献されました。



表彰式
左から、農林水産部長、深田氏代理のよし子夫人、吉村知事、県議会議長、森林ノミクス推進課長

◆おわりに

このたび受賞されました深田周一様に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

(県森林ノミクス推進課)

県農林水産部長への要望活動

◆概要

やまがた森林と緑の推進機構(今井敏理事長)、県森林組合連合会(佐藤景一郎会長)、県木材産業協同組合(安部雄祐理事長)は、10月20日、県の高橋農林水産部長に対して、森林整備事業の予算の確保や、やまがた環境税事業の抜本的な見直しなどを強く要望しました。

今井理事長・佐藤会長・安部理事長からは、県産木材の需要減少や木材価格の下落等、林業を取巻く環境が大変厳しい状況であることを現場の声として、直接、届けさせていたいただきました。

◆要望事項

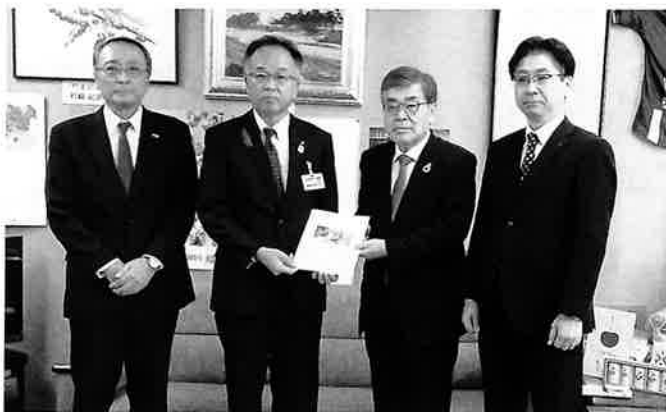
- 一 森林整備事業に係る県当初予算の十分な確保。また、やまがた緑環境税事業の抜本的な見直し
- 二 原木輸出への積極的な支援
- 三 林道などの路網整備の積極的な推進、及び昨年の大雨による被災路網の早急な復旧
- 四 高性能林業機械の活用等による効率的な木材生産の推進、及び林業労働力の確保・育成の推進

五 クマの剥皮被害の予防対策の支援、予防技術の研究開発

◆農林水産部長コメント

高橋農林水産部長からは、「県予算は大変厳しい状況ではあるが、森林整備は大切な事業であり、十分に予算を確保できるよう頑張る」とのコメントがありました。

(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)



高橋農林水産部長(左から2人目)への要望書手交

県産きのこのさらなる品質向上を目指して！ 第39回山形県きのこの品評会開催

〇きのこ生産者の逸品が集結

令和7年11月17日（月）、18日（火）の2日間、第39回山形県きのこの品評会が、新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」を会場に開催されました。



審査会の様子

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上、生産者の生産意欲の高揚を図ることを目的として山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。

今年も県内各地から、生産者が丹

品されたきのこの即売会が行われました。

精進めて栽培した生しいたけ、なめこ、えのきたけ、まいたけ、ぶなしめじ等、計31点が出品されました。

〇最優秀賞は熊谷袈裟秀さんに

1日目に開催された審査会では、小畑義一森林研究研修センター所長を審査委員長とし、青果物卸売会社等からなる審査委員により、傘の形や厚み、色沢など数項目について審査が行われ、熊谷袈裟秀氏（鮭川村）の生しいたけ（菌床）が最優秀賞の山形県知事賞を受賞しました。



山形県知事賞 生しいたけ（菌床）

〇展示会、表彰式、即売会を開催

2日目には、展示会、表彰式と出

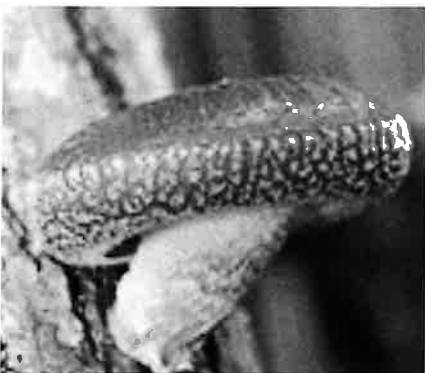


賑わいを見せる即売会

県外の方からは、「山形のきのこはおいしいから好き！」と感嘆する声があがるなど、たくさん買い求める方々もおられ、山形県の栽培技術の高さを多くの皆様に感じていただくことが出来ました。

県では、今後も県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを支援してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕



「山菜・きのこ」を食べて健康生活！

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

『全国林材業労働災害防止大会』開催

◆はじめに

林業・木材製造業労働災害防止協会が主催する第61回全国林材業労働災害防止大会は、11月21日（金）、山形市の山形テルサを会場に開催されました。この大会は林業及び木材製造業の関係者が一堂に会し、労働安全衛生意識の高揚を図り、労働災害撲滅への決意を新たにすることを目的に毎年開催されているものです。本県開催は平成18年以来2回目です。

大会には北海道から沖縄県支部まで、567名の多くの会員や関係者に参加いただきました。

◆活動報告・特別講演等

活動報告として、温海町森林組合が積極的に取り組んでいる現場の安全対策と生産性の向上について、同組合事業課長の宍持喜哉氏から発表いただきました。

また、特別講演として、安全な林業作業の推進と従事者の技能と地位の向上定着に取り組んでいる全国森林組合連合会常務理事・（一社）林業技能向上センター専務理事の飛山

龍一氏から、その必要性等についてご講演いただきました。

引き続き、吉本興業所属の山形県住みます芸人・ソラシドから伐木作業に必要な保護具や伐倒の合図、立入禁止区域等を題材とする漫才をご披露いただき、会場の笑いを誘いました。

◆大会式典

出羽三山の山伏のほら貝吹鳴を合図に開会され、小関勝助県支部長の開会のあいさつに続き、中崎和久会長の式辞では労働災害ゼロを目指す職場づくりの推進が提唱されました。また、山形市長等の来賓からご祝辞をいただきました。

その後、労働災害防止活動に熱心に取り組んでいる事業体や個人の表彰が行われ、本県からは進歩賞として東北ウッドカッター（株）、荒生木材（有）、功労賞として佐藤里美氏（北村山分会長）、渡部伸也氏（最上分会安全衛生指導員）、功績賞として五十嵐茂一氏（元田川分会事務局長）の皆様が受賞され、県内の安全活動の大きな励みとなりました。

「大会宣言」は県支部の阿部知行副支部長から、ゼロ災に向けた決意・取組が提案され、採択されました。

◆おわりに

県内外の参加者からは「とても充実した大会だった」旨の声が多く寄せられております。

林材業の関係者の皆様には当大会を契機として、安全措置の確実な実施と、林材業労働安全標語「過信せず 確かな手順で ゼロ災害」にご協力をお願い申し上げます。



〔林材業労働災害防止協会山形県支部〕

Watarai

PRIDE, CHALLENGE, ONE and Only

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!

総合電設業、木質燃料製造販売、
一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業



Imony

詳しくはこちらから



代表取締役
(株)渡会電気土木 丹治真彦

本社/山形県鶴岡市下山添字一里塚36

☎0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345

田代工場/鶴岡市田代字広瀬16-2

☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786

庄内工場/東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

営業所/酒田・山形・米沢・新庄

仙台・酒田共同火力工事事務所

PELLET
Watarai

山形県民の宝である「樹氷」の復活に向け 樹氷復活県民会議によるオオシラビソ林の再生

○樹氷復活県民会議

蔵王の樹氷を形づくるオオシラビソ(別名:アオモリトドマツ)が広範囲で枯死し、樹氷の存続が危ぶまれています。特に被害の大きい地蔵岳山頂付近では自生する稚樹がほとんど確認できないことから、このままでは自然による再生は難しい状況です。

県では、蔵王連峰の特徴的な植生であるオオシラビソ林を再生し、ひいては県民の宝である樹氷の景観を復活させることを目的として、令和4年度に「樹氷復活県民会議」(事務局:県みどり自然課)を設立しました。

更に、樹氷復活県民会議の趣旨に賛同し、オオシラビソ林再生・樹氷復活のための活動に自ら取組み、または取組みを支援する企業・団体として「樹氷復活サポーター」として登録し、継続的な活動に取り組んでいます。令和7年11月1日現在、学校・観光協会・ホテルなど40団体が加盟しています。

○オオシラビソの育成

〈蔵王温泉スキー場側〉

オオシラビソ林を再生させた事例



蔵王温泉スキー場での稚樹移植活動

はなく、流通している苗木もないことから、蔵王温泉スキー場の標高1,400m付近に県圃場を整備し種子から苗木を育てています。また、ユートピアゲレンデ付近に自生する稚樹を掘り取り、標高1,600mの山頂付近に移植しています。令和7年度は稚樹移植活動を3回実施し、山形市内の小・中学生、県立村山産業高校生及び樹氷復活サポーターの企業・団体、延べ134名が計60本の稚樹を移植しました。

〈蔵王坊平高原側〉

蔵王坊平高原では、枯死したオオシラビソの根本付近に稚樹が自生していることから、上市市内の小・中学生が、御田ノ神湿原付近で、笹を刈り払い、稚樹の成長を助ける環境体験学習を行っています。子どもたちは笹藪に分け入って探した稚樹の周りの笹を刈り取り、樹高や枝の数を観察して記録しました。

オオシラビソの成長は年に数センチ、成木まで70年必要とも言われています。樹氷の再生は、息の長い取り組みとなることから、次世代を担う子どもたちへの継承も取組みの大きな柱となります。



蔵王坊平高原での環境体験学習

○再生計画づくり

新たな取組みとして、樹氷復活県民会議に「自然再生推進法」に基づく「自然再生協議会」の役割を追加しました。「自然再生推進法」では、過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、対象地域の自然再生に関心や関りを持つ多様な主体が参加する「自然再生協議会」を組織し、協議を重ね、各参加者が連携協力しつつ自然再生の取組みを実施するとしています。

県民会議では、具体的に検討するため、地元関係団体、地域住民、有識者、行政機関が参加する自然再生協議会ワーキングチームを組織し、長期的な観点から自然再生の全体的な方向性を示す「自然再生全体構想」の策定と「自然再生事業実施計画」の案について協議しています。

令和7年度は、オオシラビソ林を再生させる範囲や目標などについて意見を出し合い、「自然再生全体構想」の骨子案を取りまとめ、令和8年度の策定を目指します。

樹氷復活県民会議では、今後もオオシラビソ林の再生に向けて取り組みを行っていきます。

〔県みどり自然課〕



国国有林から

「超緩効性肥料」を用いた特定苗木の 低コスト化の可能性(検証)

木というのは同じ苗木を植林したとしても、全てが同じ様に成長するものでもなく、時には群を抜いて著しく成長が早い木もあり、これらの成長の早い木々の交配を続けることにより、選りすぐりの木を生育させており、これを一般的に「エリートツリー」と言います。エリートツリーについては、下刈回数の縮減による造林の省力化・低コスト化が期待されています。

一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、成長初期に十分な養分が必要と想定されます。

このことから国有林では統一課題として全国13箇所にてエリートツリー等苗木に「超緩効性肥料」を用いた植付を実施することにしました。

エリートツリー等苗木については特定母樹から採取した特定苗木を使用しています。特定母樹とは、特に優良な種苗を生産するための特別な樹木であって、成長に優れたものとして農林水産大臣が指定しています。具体的には一般的な系統と比較して

①成長が1.5倍以上の材積、②幹の通直性は曲がりがないか曲がりがあっても採材に支障がないもの、



特定母樹から採取された特定苗木

③花粉量が一般的なスギのおおむね半分以下、と定められており、この特定母樹から採取された種穂から育成された苗木を「特定苗木」としています。

特定苗木については、山形県内の国有林において令和7年度、約5万8千本を植栽予定していますが、

超緩効性肥料を施肥した植付については東北森林管理局管内では秋田県と山形県の2箇所のみで、そのうち山形森林管理署最上支署管内の鮭川村所在の国有林が県内初の試みであり、今年10月に植付を終えています。

「超緩効性肥料」というのは、普通の肥料の場合、吸水するとその肥料がすぐ溶出してしまうのに対し、肥料の周りが樹脂で被膜されていることから、樹脂にある微細な穴を通じて土中の水分が侵入してきたときに微細な穴から徐々に肥料が溶け出して植物に吸収されていきます。このため肥料期間が非常に長いのが特徴です。今回の試験には肥料効果が7百日持続するものを使用しています。

この植付は低コスト化の可能性を検証する試験地でありますので、4種類のプロットを横並びで設置し比較する「完全型試験地」を採用しています。この4種類のプロットの構成ですが、①特定苗木(コンテナ)

に超緩効性肥料有、②特定苗木(コンテナ)に肥料無、③普通苗木(コンテナ)に超緩効性肥料有、④普通苗木(コンテナ)に肥料無、としており日照や土壌が同等となるように、



計測を実施しながら植付箇所を選定

傾斜の上、中、下にそれぞれ設置し、4プロットを1セットとして計3セットを設置しています。

プロット設置について均一に植えることが試験地として大切なため、計測を行い植付ポイントを選定し、格子状に植付を実施しました。苗木1本1本にはタグが付けられており、令和8年度から令和11年度まで、年2回の成長量調査(苗木長、根元径等)を行っていきます。

この試験地の結果をもって、さらなる造林の省力化・低コスト化が期待されています。

〔山形森林管理署最上支署〕



みどりのページ

「森の教室 どんぐりくんと 森の仲間たち」

公益社団法人国土緑化推進機構と各都道府県緑化推進委員会が主催する「森の教室」は、幼稚園や保育園に赴いて、森林が持つ様々な役割とその大切さを伝える全国巡回型のプロジェクトです。環境への意識づくりを子供から家族へ、そして地域へと広げ、緑豊かな環境を次世代に受け継ぐために、途絶えることのない緑化運動を目指して開催されています。

このプロジェクトは株式会社ファミリーマートの店頭募金「夢の懸け橋募金」により行われており、今年度は45都道府県で開催されています。山形県内では、3つの園で開催され、384名の園児が参加しました。

① 10月15日（水）

学校法人東谷学園

天童東幼稚園（天童市）

参加園児数 95名

同学校法人

天童しぜん幼稚園（天童市）

参加園児数 134名

② 10月16日（木）

社会福祉法人

にこにこ子どもの家（天童市）

参加園児数 74名

③ 10月17日（金）

社会福祉法人

山上保育園（米沢市）

参加園児数 81名

園児たちは、キャラクターショーに参加し、森づくり名人「どんぐりくん」と森づくりAIロボット「ふあみたん」、司会進行役の「森のお姉さん」と共に、大きな絵本を使って、森の3つのはたらき（空気をきれいにする、土砂崩れを起こりにくくする、水をつくる）について学びクイズやダンスを楽しみました。



森のはたらきについての勉強

森のクイズでは、園児たちが森に棲むクマやシカなどの足跡の絵を見て、どの動物か答えていました。森

のダンスでは、「どんぐりくん」「ふあみたん」と一緒に元気いっぱい楽しく踊りました。ダンス終了後には、森の教室で学んだご褒美として、木製の魚釣りセットと森の体操DVD、ぬり絵ハガキがプレゼントされました。



みんなで元気に森のダンス

イベントの最後には、コナラやミズナラなどのどんぐりの種類やどんぐりの芽や根のつき方について勉強しました。今年は凶作でどんぐりが準備できなかったため、コナラ苗の移植を行いました。

プランターにクラスごとに2本のコナラ苗を植え、大切に育てて、数年後には、園内や地元の人に里帰りさせることにしています。



プレゼントの魚釣りセット贈呈

来年度も森の教室開催に向け調整を図って参りますので、ご希望がある保育園・幼稚園等がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



コナラ苗の移植

緑の少年団出前教室の開催

山形県緑の少年団連盟では、県内の緑の少年団を対象に、活動を支援する講師の派遣や教材の提供等の「出前教室」に取り組んでいます。この度、山形市立東沢小学校緑の少年団の活動につき出前教室を実施しましたので、その様子を報告いたします。

期 日 令和7年10月24日(金)

場 所 山形市立東沢小学校

講 師 樹木医 山口修氏

参加者 東沢小学校緑の少年団

3年生20名

東沢小学校緑の少年団は、校庭にある身近な樹木に興味と親しみをもち、自然への関心を深めることを目的として、樹名板の製作・設置に向けた学習を行いました。

まず教室では、事前に選定した10本の樹木について、樹木医の山口修氏からそれぞれの特徴を学ぶ授業が行われました。子どもたちは、後日製作予定の樹名板に記載する情報を熱心にメモしながら、樹木の名前や特徴への理解を深めました。

授業の後は、校庭に出て樹木を観察しました。アオダモの枝を使って「水につけると青くなる」といった性質を観察するなど、理科の授業のような体験も交え、楽しみながら学

びを深めました。

授業で学んだことや自分たちで調べた内容を基に、子どもたちが文章を考えて製作した樹名板が校庭に並び、今からとても楽しみです。



校庭の樹木を観察する少年団員

東北・北海道地区の緑化功労者表彰 荒倉散策道愛護会

11月13日(木)に福島県福島市で開催された東北・北海道地区緑化推進協議会において緑化功労者表彰式が行われ、各道県から8団体・個人が表彰されました。本県からは、鶴岡市の「荒倉散策道愛護会」(平田充廣会長)が受賞されましたのでご紹介いたします。

荒倉散策道愛護会は、平成12年に設立されて以来、総延長10キロメートルにも及ぶ荒倉散策道を守り続けるとともに、荒倉山一帯の豊かな動

植物の保護と観察にも積極的に取り組んできました。

同会はこの活動にとどまらず、地元の鶴岡市立上郷小学校と連携し、地域の未来を担う6年生と桜の植樹も行っており、さらには専門講師による講習会を開催するなど、緑や自然を守ることの大切さについての理解と意識向上に努めています。

散策道周辺にある日本一とも称される「イチヨウ林」(約200本)に対する環境整備や散策道整備にも力を注いでおり、地域の憩いの場として活用できるようにしています。同会のご功績に敬意を表しますとともに、今後益々のご活躍を祈念いたします。

令和7年度 東北・北海道地区緑化推進協議会 総会



表彰状を受け取る平田会長

(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)

緑の募金にご協力いただいた企業・団体の皆様 (R7. 10. 1~11. 30)

〔やまがた森林と緑の推進機構取扱い分〕

(有)青木建材、秋葉商店(有)、アシード(株)、芦野工業(株)、(株)安藤組、飯鉢工業(株)、(株)石川測量事務所、衣袋建設(株)、エフ・エム・ピー・カンノ(株)、M木工、エムテックスマツムラ(株)、(株)太田製材、尾形興業(有)、オビサン(株)、(株)柿崎建設工業、(株)キヨスミ産研、(有)ケイ・ティー・ティー、(株)ケンコン、(有)厚生社、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(有)後藤クリーン商会、(株)斎藤建設、(株)斎藤板金工業所、佐藤建設工業(株)、(株)三洋、JA全農くみあい飼料(株)北日本事業本部南東北支店、(株)シェルター、塩屋物流(有)、庄内赤川土地改良区、庄内ウッド、JA庄内たがわ、庄内環境緑化事業協同組合、森林研究・整備森林整備センター、スズモト(株)、(株)全農ライフサポート山形、大伸建設(株)、グイドードリンコ(株)、(株)大和、(株)高橋組、(株)田村測量設計事務所、タンノ清掃興業(株)、中央公害清掃(株)、(株)デンソー山形、東北エプソン(株)、東北クリーン開発(株)、(株)東北消防設備、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)東北緑地造園、(株)永田プロダクツ、(株)ナルセ、日東ベスト(株)、(株)仁科工務店、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山形支店、ハイジェントテクノロジー(株)山形工場、浜理PFS(株)米沢工場、(株)東根新電元、文化清掃(有)、(株)本間利雄設計事務所、(株)マイスター、(株)マツダ建設、(株)マルカ、(株)丸保大沼組、マルミツ産業(株)、三ツ和工業(株)山形工場、(株)村山商工、(株)メコム、本沢郵便局、山形環境保全協同組合、(公社)山形県畜産協会、(一社)山形県土地改良建設協会、山形商工会議所、(株)山形城南木材市場、(株)やまがた新電力、山形市立滝山小学校、(協組)山形木造住宅プレカットシステム、山建工業(株)、(株)山本製作所東根事業所、山和建設(株)、(株)横山測量設計事務所、米沢ライオンズクラブ、(株)ライナー、(株)冷凍技術工業所、ロータス山形(株)

ご協力ありがとうございました

(敬称略、五十音順)

「やまがた絆の森」契約更新企業 (費用負担型)へ感謝状贈呈

【はじめに】

やまがた絆の森づくり事業は、企業や団体、県、森林所有者が協定を結び、植栽、間伐、下草刈りなどの森林整備や自然体験活動を通じて、環境保全と地域交流を進める取り組みです。

森林づくり活動を企業の社員自らが実施する(実践型)と、企業等が森林整備費用の一部を負担し、森林所有者が整備を行う(費用負担型)があります。

公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構(以下「機構」)では、平成22年度から(費用負担型)を活用し、県と企業との三者協定を結び、分収造林地の間伐を通じた里山地域の活性化に取り組んでいます。

【感謝状の贈呈式】

令和7年10月17日(金)に、山形市長谷堂の機構研修室において、「やまがた絆の森」契約更新企業(費用負担型)への感謝状贈呈式を開催しました。

贈呈式では、長年にわたり機構が

管理する分収造林地の整備に御協力をいただいている3企業4団体の代表者に、当機構の今井理事長から感謝状を贈呈しました。



贈呈式の様子

感謝状はイチヨウの木の無垢材、文字等はカラー印刷で、家具工房モクから製作してもらいました。

【企業の取組み】

○山形日産自動車株式会社

日産プリンス山形販売株式会社

平成29年度から朝日町で「ニッサ

ンの森 [Asahi] (実践型)と、「ニッサンの森」(費用負担型)の2つの協定を締結し活動しています。今年度からは大江町の分収造林地も加え、3期目がスタートしました。協定面積は約75haです。

また、「ニッサンの森」[Asahi]では、社員とその御家族、また日産自動車を利用しているお客様が、植樹や下刈り作業、木工教室、芋煮会などの活動を行っています。

○あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

令和元年度から西川町で「あいおいニッセイ同和損保の森」(実践型)と(費用負担型)の2つの絆の森づくり活動を行っています。毎年、分収造林地で間伐を行っており協定面積は53haです。今年度から3期目がスタートしました。

また、西川町沼山地区内の森林では、社員や御家族が、コナラやブナの植樹体験、施肥、下草刈りなどの活動を熱心に行っています。

○株式会社エルデック

令和3年度から酒田市と庄内町をエリアとした「エルデックの森」(費用負担型)の協定を締結しており、今年度から第2期目がスタートしました。協定面積は約64haで、今後も

令和6年度の豪雨により被災した森林の復旧と合わせ、間伐等の森林整備を計画的に進めていく予定です。また、同社は森林づくり活動以外にも、清掃ボランティアや河川、海岸の美化活動を通じて地域貢献を行っています。これらの社会貢献が評価され、山形県から令和6年に環境保全推進賞が授与されています。



左から(株)エルデック佐藤代表取締役、日産グループ小関代表取締役、今井理事長、あいおいニッセイ同和損保吉尾支店長

【結びに】

これからも機構では、企業や県民、地域団体と連携しながら、森づくり活動を通じた環境保全と地域の活性化を着実に進めてまいります。

(公財)やまがた森林と緑の推進機構

森林技術者のICT技術の向上を図る

スマート林業研修を始動

【はじめに】

近年の森林・林業・木材産業を巡る大きな変化は令和元年度から森林経営管理法に基づく森林経営管理制度が導入されたことです。人口減少・少子高齢化が急速に進む中で、ICT等の先進的な技術を活用したスマート林業などの林業イノベーションを推進し、生産性や安全性を向上させることが急務となっています。センターでは、このような社会情勢の変化に対応するため、令和5年度に当センターの機能強化についてとりまとめて、今後の方向性を示したところですが、その中で、「スマート林業の導入に向けた林業経営体等への速やかな技術移転と人材育成」を今後の重点テーマとして掲げて取り組んでいくこととしました。

更に、令和6年度には、試験実習林に衛星通信機器（スターリンク）を設置し、通信環境を整備しました。加えて、日々進化するICT技術に関する専門的な知識・技術を有する人材を育成するため、最新技術と活用ノウハウを有する民間団体と連

携し、ICT技術の基礎知識、森林資源調査・路網作設技術等習得のための研修カリキュラムを作成しました。これによりスマート林業を効果的に学ぶ研修内容が確立されました。この度、林業事業体職員を対象に新たな通信環境と研修カリキュラムを活用した初めての研修を「令和7年度森林技術者技術向上研修（ICT技術）」として実施したので報告します。

【研修概要】

研修は令和7年10月14日・15日の2日間にわたり試験実習林で実施し、林業事業体の職員計8名が受講しました。研修カリキュラムの作成に協力いただいた（一社）山形県森林調査協会から講師を招き、座学ではスマート林業の概要について学び、実習ではICT技術を用いた森林調査と路網調査の手法について研修を行いました。

具体的には、森林調査の実習では、ドローンの飛行ルートの設定、シミュレータや実機を用いた飛行の練習を行いました。また、路網調査の実

習では、ドローン等により取得したデータを加工して、林内路網を自動



森林調査の実習（ドローンのシミュレータ）



座学の状況（スマート林業の概要）

設計する手法の演習を行いました。受講者からは、座学だけではなく実習を含めて学べたことや、他の事業体と情報共有ができて良かったとの声が寄せられました。受講者や所属する事業体においてICT技術への理解が深まり、導入が進むことが期待されます。



路網調査の実習（GNSS測量）

【おわりに】

センターでは、今回の研修の振り返りを反映させながら、来年度以降もブラッシュアップして実施していきますので、皆様の参加をお待ちしております。

〔森林研究研修センター〕



フォレスト通信

農林大学校
● 農林大学校
● 専門職大学

未来のフォレスターたち



◆ 附属農林大学校 林業経営学科

11月になり、1学年は座学や実習に励み、2学年は卒業論文の完成に向けて頑張っています。今回は2学年が初めて林業技能検定を受験し合格したので、その取り組みについて紹介させていただきます。

◇ 林業技能検定について

一般社団法人林業技能向上センターにより、林業従事者の安全作業に係る技能の向上、就業環境の改善や社会的・経済的な地位の向上等に資する林業技能検定が令和6年度から始まっています。学科試験と実技試験からなり、合格基準はそれぞれ、60点、65点となっています。

◇ 実技試験対策

実技の受験に向けては、全国6箇所で開催されている林業労働災害撲滅研修（以下「技能検定トライアル研修」）を県森林ノミクス課、県森連、林災防の協力のもと本校を会場に10月2日、3日に開催していただき、県内の林業従事者と一緒に研修を受講しました。学生はチェンソーの組立や丸太合わせ切りなど検定内容を学びました。また、1、2級の内容を研修した一般の研修生は、「参考になった。」「ブレイキなど一つ一つ動作を確認した上で検定に挑みたい。」などの感想がありました。



技能検定トライアル研修会の状況

〔附属農林大学校〕

その後、10月下旬に岩手県で受験した結果、見事に県内ではじめて3級に学生が4人、また職員が1級に合格したので報告します。今後このような取り組みを続け、安全で確実な伐木作業のできる林業の担い手の育成をして参ります。

◆ 専門職大学 森林業経営学科

講義や実習で忙しい日々を過ごす専門職大学生ですが、地域との連携活動にも積極的に参加しています。

10月5日（日）には、真室川演習林において「東北農林専門職大学市民講座フィールド編」が開催されました。市民講座は農・食・森などをテーマに年に3回程度開催され、多くの方々に参加していただいています。フィールド編は昨年の講座に参加した方から野外での講座も開催してほしいとの要望があり、フロラ山形の植物分類講座と合同で開催されました。この講座には森林業経営学科の学生もスタッフとして参加し、



真室川演習林での市民講座にて

いつもは間伐実習などを行っている演習林で、秋の草花について学びました。



コスモステーでのリースづくり

また、11月8日（日）に新庄市民プラザ大ホールで開催された新庄市教育の日「コスモステー」では「東北農林専門職大学の木遣い〜クリスマスリース作り〜」にも参加し、子供たちを含む新庄市民の方々と一緒にリースづくりを楽しみました。専門職大学が掲げる教育目標の一つに「地域をけん引できる人材の育成」があります。これからも地域の方々と様々な関わりを持ちながら活動し、地域のリーダーとして活躍する人材になることを期待します。

〔東北農林専門職大学〕

森の人紹介

地域の宝を未来につなぐ

荒倉散策道愛護会会長

平田 充 廣さん



「荒倉散策道愛護会」(以下:愛護会)

は、鶴岡市の「荒倉山」の総延長10kmにおよぶ散策道と、日本一とも言われる1haのイチヨウ林を地域住民とともに守ってきた団体です。平成25年に発足して以来、倒木の処理や草刈りなどの維持管理を途切れることなく続けており、歩きやすく整備された散策道は多くの方に親しまれています。

令和元年から会長を務める平田さんは、自らチェーンソーを手に率先して作業する頼れる存在。「何より会員みんなが楽しんで活動できることが大事」「子供たちのためにも、荒倉の美しい自然を残したい」と笑顔で語ります。

愛護会では、特に地元の鶴岡市立上郷小学校との連携を大切にしており、森林散策と専門の講師による自

然環境学習を組み合わせた学習会を毎年実施。未来を担う子どもたちに自然の大切さを伝えようと、平成27年度から6年生と一緒に散策道沿線の桜の植樹を行っています。自らの手で植えた木が成長していく姿を見守る体験は、子どもたちの自然への関心と地域への愛着を育む大切な機会になっています。

愛護会のこうした地道な取り組みと自然保全への真摯な姿勢が高く評価され、令和7年度には「東北・北海道地区緑化功労者」として表彰され、国土緑化推進機構より感謝状が授与されました。

最近では熊による被害が問題になることもあり、自分たちができる対策を模索しながら、地域と自然がうまく共存できる方法を探っています。

「自分たちだけでは難しいことも、森づくりに関わる団体・組合・行政等の多様な主体が手をつなげば実現できる。横のつながりを構築できる仕組みづくりが大切だ」と語る平田さんの眼は今後を見据えています。これからも愛護会の活動が途切れることなく続き、地域の宝である荒倉の自然が未来へとつながっていくことを期待しています。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

なめこを生産する青年林業士

熊谷 耐志さん

有限会社熊谷伊兵治ナメコ生産所の代表取締役である熊谷耐志さんを紹介します。

▼プロフィール

熊谷さんは、鶴岡市に生まれ、県外で就職していましたが、きのこの生産の仕事に就くため、ご家族と一緒に鮭川村に移住されました。

▼こだわりのきのこ栽培

自社ナメコの名称を親しみやすい「くまちゃんなめこ」として、マルシェやイベントでなめこを使ったレシピを試食してもらい、食べ方を提案していく「食べること」・「知ること」を重視されています。

また、地域の高校生の施設見学や収穫体験の受け入れなど、きのこに関する教育も積極的に行っており、「体験すること」を提供しています。

▼生産・販売の取り組み

市場や直売所、旅館、飲食店など県内、県外各所に出荷されています。令和5年にはジャパン・フード・セレクションのグランプリを受賞し、きのこの品質向上、生産の安全・安心への取り組みも評価されています。

また、若手きのこ生産者が中心の組織であるProfessionalきのこ山形の一員として、最上地域のきのこ販売促進に寄与しています。

▼今後の展開

異常気象や物価高で生産コストが増大し、きのこ生産者が年々減少しているため、きのこ生産施設の転用、培養センター方式による栽培方法の変更などを勘案されています。

また、青年林業士としてのきのこ生産原料となる広葉樹の資源確保と粉の品質確保に向けて、素材生産者と情報交換を行い、最上地域の広葉樹を生かすべく活動しています。最上地域の若手きのこ生産者の中心的存在として、今後ともきのこ産地の発展に向けて更なるご活躍を期待しております。

〔最上総合支庁森林整備課〕



原木なめこ栽培技術研修会を開催しました

◆はじめに

村山地域では森林空間を利用した原木なめこの生産が盛んですが、近年は夏場の高温乾燥による発生不良や生産者の減少により、生産量が減少傾向です。

そこで新たな担い手育成や需要の創出に向け、本県の林業技術現地適応化事業において成果をとりまとめた植菌方法（シリコンコーキング剤による封蠟作業の簡略化）を実習しました。講師には生産者で指導林業士の菊地廣行氏を迎え、原木なめこの発生不良を防ぐ管理方法をお話しいただきました。



コーキング剤による封蠟作業

◆原木なめこ栽培技術研修会

11月11日（火）に寒河江市幸生で行った研修会には、原木なめこ栽培に関心をお持ちの16名の方に参加いただきました。

実際に植菌作業を行った後は、菊地氏の貴重なお話に、参加者から多くの質問が寄せられ、原木なめこ栽培への関心の高さが感じられました。

その後原木なめこの試食として、地元の方に調理いただいた「なめこ汁」と「なめこおろし」がふるまわれ、みなさん、原木なめこの美味しさを再確認していました。

研修後のアンケートでは「勉強になった」「情報を共有したい」などのコメントがあり、研修会の満足度や内容への理解度も高い結果でした。

◆おわりに

村山総合支庁では、地域の森林を将来にわたって利用できるよう、今後原木なめこをはじめとする特用林産物の栽培技術の普及に取り組んでまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森がつながり、ひろがる未来。



東北ウッドカッター株式会社

〒996-0041 山形県新庄市鳥越1878-7

TEL.0233-32-1406 FAX.0233-32-1407

国有林事業／請負業務／山林・立木の購入



森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 難波真悟

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

おきたま林業株式会社 の森林認証取得と 持続的森林経営の取組みについて

令和4年に白鷹町で設立したおきたま林業(株)が令和7年10月9日に森林認証(SGEC)を取得しました。SGEC森林認証は、森林の多様性及び生物学的、経済的、社会的な機能を将来に渡って維持できる森林管理について認証したもので、持続可能な森林経営の実現が期待されます。現在、おきたま林業(株)では白鷹町内の成熟したスギ林等の森林資源を財産として持続的に活用するために、3千ha超の民有林で森林経営計画を樹立し、年間約30haの主伐・再造林を実施しています。



SGEC 森林認証の取得

近年の住宅着工減による木材取引量の減少の中にあつて、「認証木材」による取引枠を活用し有利に販売することができています。経済性の確保なしには森林経営の持続性の維持は困難であり、森林認証木材の出荷は重要になります。



コンテナ苗の育成状況

さらに、令和6年度からコンテナ苗生産にも取り組み、年間8万本の出荷を計画しています。これにより白鷹町内における「伐つて、使つて、植える」持続的森林経営の姿がもうすぐ見られることでしょう。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

林業ICT研修会の開催

◆はじめに

林業ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の活用による現場作業の生産性向上が期待されますが、これらの技術を現場の業務に広く普及することが課題となっています。

そこで、林業現場におけるICTについて理解を深め、活用する能力を高めることで森林資源管理の効率化を推進するため、林業ICT研修会を実施しました。

◆研修会の開催

研修会は、9月25日(木)に庄内総合支庁を会場に開催し、林業事業者や市町担当者など12名が参加しました。

講師には、森林のICT化をサポートしている株式会社ジッタ東京営業所の吉田隆介氏を招へいし、林業現場におけるICTの概要やGNSS (Global Navigation Satellite System : 全球測位衛星システム) 測定の基礎等について説明をいただきました。その後、庁舎外に移動し参加者全員がGNSS受信機を使用した測量を体験しました。

実際に林業の現場で導入されている機器を用いた測量を体験することで、測量に要する

人員や現地作業時間の大幅な削減、高精度なデータの取得、電子野帳ソフトウェアの利用によるデータ処理の省力化といった長所が実感できました。

◆おわりに

林業ICTの現場への導入を効率的な施策につなげられるよう、今後とも知識や技術を普及してまいります。



〔庄内総合支庁森林整備課〕

庄内森とみどりのフェスティバル2025」開催しました！

「庄内森とみどりのフェスティバル2025」が鶴岡市小真木原公園と酒田市平田B&G海洋センター体育館の2会場で開催されました。このフェスティバルは、森林・林業の重要性や県民参加の森づくり、地域産材の活用などについて広くPRすることを目的としています。

鶴岡会場については、鶴岡市が主催する「つるおか大産業まつり」との同時開催により10月19日（土）から20日（日）の2日間にわたり実施しました。今年は雨が降ったり止んだりのあいにくの空模様でしたが、多くの来場者にお越しいただきました。



鶴岡会場

た。恒例の上棟式も開催され、秋のイベントとして楽しんでいただきました。

酒田会場については、八幡・平田連携事業による「八平（はっぴー）まつり」との同時開催により11月3日（月・祝）に実施しました。今年度初の試みとして室内会場での開催となりましたが、天候に左右されることなく開催できたこともあり、多くの来場者にお越しいただきました。両会場ともに、各出展者のブースでは主に小学生を対象とした木工教室が開催され、広葉樹の葉のしおり、松ぼっくりを使った木工クラフト、



酒田会場

木製踏み台、ブックスタンド、木製小箱など、参加者それぞれが興味を持った木工品の作成に取組みました。これらの木工体験を通じ、木の良さを実感してもらおう良い機会となりました。



木工教室

また、令和8年度に実施予定の「やまがた緑環境税の見直し」に向け、県民の皆様のやまがた緑環境税に対するご意見を伺うアンケートを各会場で実施しました。ご協力いただいた方には、みどりのプレゼントとして鶴岡会場ではブルーベリーの苗木を、酒田会場ではポインセチアの鉢を配布し、多くの方々に喜んでいただきました。

加えて、特用林産物の振興として、各会場の庄内地方林業振興協議会ブ

ースにおいて、庄内産原木しいたけの無料配布を実施しました。配布の前後に櫓木を展示したところ、多くの来場者が足を止め、「しいたけが生えているのを」初めて見ました」や、「こんな堅い木材から生えてくるなんて驚きだ」などのコメントがあり、特用林産物のPRに有意義な催しとなりました。



きのこのプレゼント

庄内地方林業振興協議会では、今後も「庄内森とみどりのフェスティバル」の開催等を通じ、木材や特用林産物等の森のめぐみに触れ合う機会を提供し、森林・林業・木材産業の役割や緑豊かな自然環境の重要性について、引き続き広く県民にPRしてまいります。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

高性能林業機械メンテナンス研修会・ 高性能林業新機械導入研修会を開催

◆はじめに

高性能林業機械の導入は、労働生産性の向上、生産コストの低減、労働災害の低減など労働環境の改善に大きく貢献します。

当協会では、10月28日に村山総合支庁森林整備課との共催で高性能林業機械のメンテナンス研修会を、11月20日には庄内総合支庁森林整備課との共催で新機械導入研修会を開催しました。両研修会は、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構からの支援により実施しました。

◆メンテナンス研修会

研修会は、天童市のレンタルのニッケン山形林業センターにおいて開催し、村山地域の林業事業者や行政関係者等18名の参加がありました。講師はレンタルのニッケンで高性能林業機械の整備に従事している職員が担当し、掘削から伐倒までできる多機能なフェラーバンチャザウルスロボと、県内で一番多く使われているフォワードのメンテナンスについて学びました。林業事業者では日常の保守点検がおろそかになりやすく、



クローラーの点検箇所について説明

特にレンタルの機械ではその傾向があり、点検不足からより高額の修繕費がかかることがあるとのこと。特にベースマシンの基本的な点検項目について、必ず実施するように説明がありました。また、林業機械に火災が発生しやすく重大事故となることから、木屑のたまりやすい場所について、詳しく説明していただきました。

フォワードについては、フォワードの要であるクローラーのメンテナンスについて多くの時間が割かれ、

履帯の張りやボルトの締め具合について具体的な説明がありました。参加者からは、「とても丁寧な説明でわかりやすかった」「普段なかなか目にするのではない内部構造やメンテナンスポイントを見聞きすることができ、勉強になりました」などの感想がありました。

◆新機械導入研修会

庄内海岸林の今年の松くい虫被害は、夏の高温少雨の影響で、過去最大だった昨年を上回る見通しです。被害の拡大防止には、枯損木の伐倒駆除が必須ですが、被害が多すぎて処理が追いつかない状況となっています。被害木の処理に高性能林業機械が活用できれば、効率的に伐採処理ができますが、曲がりの多いクロマツは、通常のハーベスタでは効率よく伐採処理ができません。今回、曲がり材も効率的に伐倒処理できるハーベスターヘッド・ウッドディを使用した研修会を、温海町森林組合の協力をいただき、酒田市宮海の海岸林で開催しました。研修会には、庄内地域の林業事業者や行政関係者等32名の参加がありました。会場となったクロマツ林は、殆どのクロマツが枯れており、被害の大きさを実感しました。



ウッドディのヘッド構造を説明

ウッドディはオーストリアのコンラート社製のハーベスタヘッドで、その特徴は、送材・造材機能にあります。独特なくびれ形状をしたフィードローラーを左右別々に動かすことにより、曲がり材や広葉樹の送材を可能にしています。

ウッドディのヘッド構造を説明後、実際にクロマツ枯損木の伐倒処理を見せていただきました。幹の曲がったクロマツ材を次々に伐倒・玉切り・集積する速さに驚きの声があがっていました。参加者からは「枯れたマツの処理に使用出来ることがわかった」「オペレーションを見ることができて、処理スピードがわかり良かった」などの感想がありました。

〔山形県森林協会〕

山形県森林協会 今井敏会長

令和7年度秋叙勲で瑞宝重光章を受章

山形県森林協会会長理事、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構理事長でもある今井敏氏が、農林水産行政事務功労により令和7年度秋の叙勲で瑞宝重光章を受章されました。

今井氏は群馬県出身で、東京大学法学部を卒業後、昭和55年に農林水産省に入省され、経営局長、生産局長、大臣官房長を歴任し、平成27年から29年までは林野庁長官を務められました。農林水産省で日本の農林水産業の政策の立案や推進にあたってこられ、そういった数々の実績・功績を残されております。

また、今井氏は山形県との縁もかなり深く、35年前の平成2年から3年間は、農林水産省から山形県に向向、農林水産部農政課長を務められ、山形県の米「はえぬぎ」と「どまんなか」の命名に携わるなど、県の農林水産業の振興にも貢献されております。さらに、令和6年に開学した東北農林専門職大学の基本構想策定委員会委員、基本計画検討委員会委員を務め、新しい大学の創設に関わっていただきました。

森林やまがた 二二二号

このたびは、瑞宝重光章のご受章誠におめでとうございます。長年の功績が高く評価され、栄えある叙勲を受章されましたこと、心よりお祝い申し上げますとともに、今後ともますますのご活躍をお祈り申し上げます。

◇瑞宝章

国及び地方公共団体の公務、または公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、他の模範となる功績のあった方に授与されます。瑞宝大綬章・瑞宝重光章・瑞宝中綬章・瑞宝小綬章・瑞宝双光章・瑞宝単光章の6種があります。

〔山形県森林協会〕



令和八年一月一日発行（隔月発行）
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号

令和7年度大日本山林会 全国林業経営推奨行事

清野忠市氏 林野庁長官賞受賞

◆大日本山林会 全国林業経営推奨行事

公益社団法人大日本山林会は、明治15年設立の日本で最も古い、林業の振興に寄与することを目的とするとする林業団体です。同会は毎年、都道府県から優良林業事業体の推薦を受け、学識経験者等の審査委員による厳正な審査により、農林水産大臣賞、林野庁長官賞、大日本山林会長賞を決定しており、今年度山形県からは、清野忠市氏（朝日町）が林野庁長官賞を受賞しました。

◆清野忠市氏

昭和47年に発足した林業グループ「朝日町愛林会」に所属し、当時朝日町が造成した森林「青年の山」の管理を任されたことがきっかけとなり、意欲的な林業経営を行ってききました。また長年にわたり、地域の森林所有者に対する森林整備や施業技術等の普及に尽力されました。

また、林業グループ「朝日町愛林会」の会長を長らく務め、町内の緑の少年団活動の指導のほか、地域児

童の植栽・木
工体験など、
森と深く関わ
り、理解を深



◆おわりに

このたび受賞されました清野忠市氏に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。
〔山形県森林協会〕

監修 山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円